

平成29年度 白鳩チルドレンセンター南丘事業報告

1. 概要

①運営方針

- 子ども子育て支援制度がスタートして3年が経過しましたが、豊中市ではこの期間待機児童解消策として新園の認可を積極的に推進し、3年間で28園（社福7園・株式10園・小規模11園）を認可し、30年度にはさらに7園（社福2園・株式3園・小規模2園）認可をいたします。それにより市は30年度に待機児童解消の目途がついたとの見解を示しました。
このような厳しい環境の中、年度初めに掲げた利用希望者に安心感・信頼感のある選ばれる園を目指し教育・保育内容のスキルアップに取り組みました。
- 平成30年度からの教育・保育要領の作成に向け外部研修・法人研修を受講し、全職員が共通理解のもと取り組みができるよう園内勉強会を実施し作成に結びました。
- 地域貢献・子育て支援が求められている中、今まで以上に個々の親子並びに地域の一体的支援や地域施設と連携を密にし、地域を基盤とした子育て支援を展開すべく、豊中市地域福祉ネットワーク会議に参加し、子供部会・高齢部会・障害部会からの報告、また各機関からの情報提供、地域交流会～ケースメソッド～等を参考に地域の子育て支援の取り組みに結びました。

②定員 160名（定数外26名） 合計186名
1号認定児 4名 2号認定児113名 3号認定児69名

③事業日数 292日（日曜・祝日及び12/29～1/3は休園します。）

④開園時間 平日・土曜 7:00～19:00

⑤保育時間

★2号・3号認定児

平日		土曜	
通常保育	7:00～18:00	通常保育	7:00～18:00
短時間保育	9:00～17:00	短時間保育	9:00～17:00
延長保育	18:00～19:00	延長保育	18:00～19:00

★1号認定児

平日	
早朝保育	7:00～9:00
通常保育	9:00～14:00
預かり保育	14:00～19:00

⑥職員数

園長 1名、主幹保育教諭 2名、保育教諭 32名（うち非常勤保育教諭 5名）
看護師 1名、教育・保育補助 2名（パート職員）園務員 1名
給食委託事業者からの派遣栄養士 1名、派遣調理員 3名、学校医 1名、
学校歯科医 1名、学校眼科医 1名、学校耳鼻咽喉科医 1名、薬剤師 1名（年間 6回環境衛生検査）

2. 教育・保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長する事が望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 子どもたちが生き生きと生活・活動出来る環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる保育の場を提供する。
- 地域における子育て支援のため、保育に関する相談や助言の役割を果たす。

③教育・保育目標

1. 心身ともに、健康な子
2. 友達と助け合える子
3. 失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジできる子
4. 優しさのある子

④クラス編成及び職員配置

0歳児	ひよこ組	15名	保育教諭	5名
1歳児	りす組	25名	保育教諭	5名
2歳児	うさぎ組	25名	保育教諭	5名
3歳児	くま組	36名（1号 1名）	保育教諭	4名
4歳児	ぞう組	41名（1号 2名）	保育教諭	4名（うち障害児加配保育教諭 2名）
5歳児	きりん組	40名（1号 1名）	保育教諭	3名
<hr/>				
合計園児数		182名（1号 4名）	保育教諭	26名
一時保育担当保育教諭		1名		
地域子育て担当保育教諭		2名（うちパート職員 1名）		
朝夕延長保育担当教諭		2名（うち職員 1名）		

⑤教育・保育内容

- 子ども達の主体的な活動を大切にしたい保育を進めましたが、若い保育者が多い自園では、適切な言葉掛けのタイミングや言葉掛けの内容が課題であり、園長や主幹保育教諭、リーダーからのアドバイスを受けながら保育を進めました。今後も共に学びながら子ども達の自主性を大切にしたい保育を行っていきます。
- 昨年度の反省をもとに、朝の「意味ある運動」の活動内容についてしっかりと考え、明確な目標を持って取り組みを進めることを意識しました。そうすることで、子ども達が生き生きと体を動かす姿が見られ、運動能力の向上を感じることができました。
- 乳児クラスでは、毎朝の「じゃれつき遊び」など保育教諭との触れ合いを大切にしたいことで、子ども達との愛着関係が深まりつつあります。
- 0，1，2歳児の食事、睡眠の時間を特に大切にしながら、基本的な生活リズムの形成を進めました。食事、睡眠については徹底した取り組みができましたが、反面以前に比べ着脱の機会が減ったことで、丁寧に着替えることができない子どもの姿が見られました。今後は着脱についてもうまく機会を作り取り組んでいきます。
- 今年度より石井式漢字教育を導入したことで、絵本に興味を持つ子どもがより一層増えました。毎朝の「言葉の学習」の時間を楽しみにする子どもが多く、保護者にも大変好評でした。
- 年間の食育計画に基づき食育活動に取り組みました。旬の食材を使った食育指導や、栽培した野菜を収穫したり、クッキングを楽しむことで、食べる意欲と興味の高まりを促すことができました。苦手なものでも食べてみようとする子どもの姿が見られ、そのことをきっかけに、苦手な食べ物を克服した子どももいました。
- 人権尊重を軸とした人権教育・保育を進めましたが、子ども達の心の成長を感じるまでの確かな手ごたえを感じることはできませんでした。今後は計画を見直し、内容の再検討を行いながら子ども達の心の成長に繋がるような取り組みを考えていきたいと思えます。

⑥家庭との連携

- クラス懇談会や個人懇談、就学前個人懇談、保育参観、保育参加を行い、共に子ども達の成長を見守り、共通理解を深めました。クラス懇談会では、開始時間を30分遅らせたことで、より多くの保護者に参加していただくことができました。
- 一人ひとりの家庭状況を把握しながら、子どもと保護者両者への支援を行いました。保護者の気持ち安定すると、子ども達の様子にも変化が見られる場合が多く、改めて保護者支援の重要性を感じました。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを保護者に啓発してきたことで、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識する家庭が増えました。以前のように、朝ごはんを食べずに登園する子どもの数も減ってきています。
- 今年度も保護者の方が参加する行事についてはアンケートをとり、保護者の意見が届きやすい環境を作りました。今後も意見等は真摯に受け止め、より良い教育・保育を実践することができるよう全職員で取り組んでいきます。

- 気になる姿が見られる子どもについて、保護者との懇談を繰り返し行いました。また、保護者の意向を汲み取りながら、豊中市の関係機関“しいの実学園”と連携を図りながら、子どもにとって必要な関わりについて保護者と共に考えました。
- 卒園、転園後も育ちの継続性を考え、園長、主幹保育教諭が窓口責任者となり子ども達を見守るための相談窓口を開きました。

⑦人材育成

- 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領について職員会議や昼ミーティング、園内研修の場で学ぶ機会を持ちました。学びを進める中で、改訂内容を理解するにはとても時間がかかることが分かりました。今後もうまく時間を作りながら全職員で継続して学んでいきます。
- 「1日の流れ」を使って、就学までの育ちの連続性の大切さを意識しながら、丁寧な保育を実践するため保育者間で確認作業を行いました。また、園長、主幹保育教諭が保育現場に入りながら、職員と共に丁寧な保育の実施に繋がっていきました。
- 年間研修計画に基づき、法人研修や園内・外の研修などに積極的に参加しました。
しかし、研修に参加したことを指導計画に盛り込むことがうまくできない保育者が多く、研修での学びが活かしきれいていません。研修での学びを具体的に保育に展開させることが今後の課題です。
- パート職員や派遣職員には、正規職員とは別の研修プログラムを計画し、園長、主幹保育教諭が指導にあたりました。
- 今年度もワークライフバランスについて職員会議などで職員自身が考える機会を持ちました。しかし、まだまだワークライフバランスの理解までは難しいのが現状です。
- 地域貢献支援員（スマイルサポーター）養成研修を1名受講しました。

⑧地域の実態に対応した事業

1. 地域子育て支援事業

- 地域貢献支援員（スマイルサポーター）、主幹保育教諭が園庭開放時に育児相談や、その他の相談に応じ必要な情報の提供及び助言を行いました。地域的に生活に直結した相談がくることはありませんが、いつでも相談に応じることができるように今後も地域への発信と受け入れ態勢を整えていきます。
- 地域担当保育教諭が中心となり、親子サークル“いちごぐみ”（年10回）を実施しました。子育て中の8組の親子が集い、親子の関わり大切さや育児や子育てに関する情報を伝えると共に、触れ合い遊びや、手遊び、リトミックなどを楽しみました。
- 校区福祉委員会主催の子育てサロン“ももちゃん”（年4回）に出向き、地域の民生児童委員の方と一緒に出張保育を行いました。
- 近隣の親子が安心して遊べる地域の憩いの場として、園庭開放（延べ120名の親子）やプール開放（3回実施・延べ32名の親子）を実施しました。

- 在宅親子や地域家庭保育所の方に、運動会、芋煮会、クリスマス会などに参加していただきました。また、豊中市のホームページ「子どもイベントスケジュール」を見て、“みなみおかであそぼう”に多くの親子が参加してくださいました。“みなみおかであそぼう”への参加がきっかけとなり、入園に繋がるケースも増えてきました。

2. その他の事業

- 東豊中図書館と連携及び協働を図りながら、本の読み聞かせ会に参加したり、本の貸し出しを行ったことで、子ども達が多く絵本に触れる機会を持つことができました。絵本への興味、関心を深めるよい機会となりました。
- 小学校教育との円滑な接続のため、5歳児が近隣の南丘小学校に出掛け、1年生との交流と校内見学や授業への参加を体験する予定でしたが、インフルエンザの大流行で中止となりました。そのため、後日南丘小学校内の見学のみ行いました。校内のみの見学でしたが、子ども達は就学に大きな期待を持つことができました。
- 豊中市立第9、第17中学の地域体験学習CUL（カル）の受け入れや、保育士養成校の実習受け入れを積極的に行いました。また、インターンシップは2名の受け入れを行いました。
- 豊中市の地域福祉ネットワークや、北東部の福祉に携わる施設や団体、また民生児童委員と連携を取り、地域の子育てについて意見交換を行いました。
- 5歳児が特別養護老人ホーム“永寿園”の高齢者の方との交流を行い、施設の利用者の方と交流を図りました。

⑨苦情処理

- 苦情申し出窓口について、保護者にはガイドブックやおたよりへの掲載、新入園児説明会やクラス懇談会などで説明を行い周知徹底を行いました。利用は0件です。
- 「意見箱」へ頂いたご意見ご要望は概ね24時間以内に対応し、掲示板へ回答書を貼り出すことを職員間で共通理解し、いつでも対応できるように準備をしていました。
今年度は、保護者の方が利用する駐輪場の使い方についての苦情が1件あり、すぐに掲示板へ回答書の貼り出しを行いました。
- 些細な苦情であっても、昼ミーティングや職員会議で伝え合い、職員間で共通認識し改善に努めました。丁寧に対応することで、苦情を大きなことになる前に収めることができました。

⑩リスクマネジメント

- 事故防止のため安全係が中心となって安全点検を行い、安全点検後は職員にフィードバックを行いました。
- 防災マニュアルについては、4月の職員会議にて全職員に周知し、マニュアルの見直しと確認を行いました。また防災備品（食品・医薬品等）については年1回の点検・整備を行いました。今年度は備蓄食料品の買い替え時期だったため、新しい備蓄食料品の購入を行いました。

- 災害発生時の保護者への連絡については、モバイルメール配信システムで速やかに連絡をとる準備を行いました。モバイルメール登録の声掛けを行ったり、おたよりなどで知らせたことで、昨年と比べるとモバイルメール未登録の方が減りました。
- 年間の保健計画に基づいて、看護師が感染症やS I D S 対応等の研修を行いました。プール活動が始まる前には、消防署の方に来ていただき、救命救急処置の研修を受け、A E D の取り扱い方についても学び、職員間で共通理解を深めました。緊急時にはすぐに行動できるように意識を高めることができました。
- 看護師と薬剤師が協力し、手洗いチェッカーを使って手洗い指導を行いました。保護者にはおたよりなどで啓発を行い、手洗いの大切さを伝えることができました。
- 食中毒やアレルギー児対応のマニュアルを全職員で確認し、共通理解を図りました。また、今年度途中よりエピペンを預かることになったため、エピペンの使用方法や、アナフィラキシーの緊急対応について園内研修を行い全職員で学びました。
- 今年度の総合避難訓練は、園で感染性胃腸炎が流行したため、急遽中止となりました。そのため、通常の避難訓練の中で災害時の動きなどについて確認を行いました。